

令和4年度 第1回吹田市環境審議会  
議事概要

会議概要

日時	令和4年(2022年)8月23日(火)14:00~16:00	
場所	全員協議会室	
出席者	委員	尾崎委員、近藤委員、塚田委員、松井委員、三輪委員、良永委員、石川委員、五十川委員、川本委員、白石委員、村口委員、中村委員、岩崎委員、芳賀委員、西田委員、橋本委員、三田委員、柚山委員
	事務局	辰谷副市長、道澤環境部長、楠本環境部次長兼環境政策室長 (環境政策室)小山参事、中野主幹、水谷主査、田中主任、圓谷主任、大澤係員 (環境保全指導課)石川指導長、西川課長 (事業課)信川課長 (資源循環エネルギーセンター)白田次長 (破碎選別工場)福山工場長
議事	1 開会 2 審議 「吹田市第3次環境基本計画」の進行管理について 3 報告 (1) 環境目標値の変更について (2) 第3次環境基本計画の指標について 4 閉会	
資料	1 令和3年度吹田市第3次環境基本計画の進行状況に係る環境審議会評価(案) 2 令和3年度吹田市第3次環境基本計画に係る環境施策の実績集約・自己評価【内部評価】 3 環境目標値の変更について 4 第3次環境基本計画の指標について 5 環境審議会評価(案)に対する意見と回答 【参考資料】 1 令和3年度吹田市第3次環境基本計画 指標実績グラフ 2 令和3年度吹田市第3次環境基本計画環境施策の実績一覧(令和4年3月31日現在)	

## 議事

### 1 開会

#### 事務局

- ・吹田市環境市議会を開催する。委員 23 名の内、18 名が出席しているので、吹田市環境審議会規則第 5 条第 2 項」に定める会議開催要件を満たしている。
- ・副市長挨拶ならびに各委員、事務局を紹介。
- ・「吹田市環境審議会規則第 4 条」に基づき委員互選で会長、副会長を選出。会長に三輪委員、副会長に良永委員が選出される。
- ・「吹田市環境審議会の会議の傍聴に関する事務取扱要領」にもとづき、傍聴者 5 名入室。

### 2 審議

「吹田市第 3 次環境基本計画」の進行管理について（資料 1、2、5）

#### 会長

「吹田市第 3 次環境基本計画」の進行管理について審議する。同計画の進行管理については、前年度の施策の実績を取りまとめ、環境審議会での審議や評価を受けて、次年度以降の施策へ反映するという PDCA サイクルを活用している。この審議会は PDCA の「Check」の場となる。資料 1の「環境審議会評価（案）」の内容について審議をお願いする。

#### 事務局

資料に基づき説明。

新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナへの侵攻など様々な国際トレンドの動向に対応し、環境基本計画の指標を追加・修正してはどうかという意見を多数いただいた。その中でも環境基本計画への影響が大きい新型コロナウイルス感染症について、その影響を評価案に書き込んでいる。その他の事象については、環境基本計画の目標は気候変動や生物多様性、資源循環への対応に向けたものであり、指標の面においては、現時点で大きく影響を受けるものではないと考えている。

計画期間中に指標を変えることは困難だが、指標の達成に向けて実施すべき取組については適宜検討していきたい。また、今後環境基本計画に大きく影響を及ぼす事案が生じた場合には、評価に書き込んでいく必要があると考えている。

#### 会長

これまでの資料ならびに事務局からの説明について意見ををお願いしたい。

#### A 委員

資料 1の P2 の「良好な環境を「まもる」」もしくは P4 の「自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成」に、すいたの自然 2021 に関して実施した取組や今後の活用につい

て記載してはどうか。

事務局

すいたの自然 2021 については P4 に記載しているため、P2 の重点戦略には記載していない。資料 1 は昨年度実績を記載する性格上、このような内容になっている。

A 委員

P4 「自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成」の「引き続き、生物多様性に関する啓発活動やイベント等の実施により、生物多様性に対する関心を高めていく必要があります。」という文言に、すいたの自然 2021 をどう活用するかも含まれていると認識して良いのか。

事務局

そのように考えている。また、今年度も様々な取組の実施を考えている。

A 委員

総合計画の見直しにあわせて、「低炭素」の文言は「脱炭素」になるのか。

事務局

国の政策でも、「低炭素」より「脱炭素」だとうたわれており、吹田市第 2 次地球温暖化対策新実行計画でも 2050 年ゼロカーボンシティを掲げているため、目指すところは「脱炭素」で間違いない。

総合計画との関わりにおいて、言葉も「脱炭素」を前面に出していきたいと考えている。御指摘の中で、脱エネルギー・省エネルギーは「低炭素」型の取組であるため、誤解のないように「低炭素」という言葉を使用している。

B 委員

節エネ・省エネ＝脱炭素型ではないと指摘したが、家庭でも電力会社を選択できるということで、エネルギー使用量が変化しなくても係数が小さい電力会社を選択すれば、低炭素に向けた選択行動をしていることになるという意味で「脱炭素＝節電だけではない」と指摘した。一部、事務局にも誤解があると思う。

事務局

誤解していたところもあると思う。「脱炭素」に向けた取組が必要だ、という点においては、市の姿勢も委員の御指摘も合致している。

#### C 委員

地球環境問題の2大テーマとして、炭素管理と生物多様性管理がある。炭素管理では2030年までに炭素を半減、2050年までに脱炭素をするためのカーボンニュートラルという明確な目標が出ている。生物多様性管理では、2030年までに生物多様性の劣化を食い止めて、2050年に向けて生物多様性が増えるような社会に持っていくということで明確にネイチャーポジティブという言葉が出てきている。コメントにも書いたが、評価の中に目標をはっきり記載することは大事で、吹田市民に対してメッセージを出せる部分だと思うので、総合計画改訂後にはなると思うが、書き込みにトライしてはいかがか。

#### 事務局

今回は前年度の進行管理ということで、環境基本計画の文言を変更するというのではないが、御指摘のとおり、議事録に残させていただく。

委員の皆さまに世界の潮流等も教えていただきつつ、多様性についても取り組んでいきたい。

#### C 委員

計画に従った進行管理はできていると思うので、**資料1**の最初に総評として、社会の環境問題的トレンドに対して、市としてどのように取り組んだか、ということが要約して記載すると評価資料の質が上がると思う。

#### 事務局

**資料2**で近年の環境情勢について記載している。

環境問題は刻一刻と変わっていくが、吹田市の環境を残していくうえで本当に重要だと市が判断した課題については、項立てをして残していくという方法はあると思う。

#### 会長

総評としてトレンドについて記載した方が良いということだが、今回の評価にも記載するか。

#### C 委員

今回は結構である。

#### D 委員

吹田という都市圏にありながら周辺の地域との連携をしっかりと考えていくということが記載されているのは重要なことだと思う。人・物・経済的なつながりについては記載されているが、連携先の能勢町の生物多様性や環境の創生に対してどれだけ正の効果をもたら

らしたかが直接的に測れるような指標や目標値があれば良いのではないかと思う。能勢町も吹田市も独自で計画を立てていると思うが、それを超えていないかということが確認できると良いと思う。

#### 事務局

能勢町と豊中市と吹田市で協議体を組んでいるが、能勢町がレッドリストデータブックや能勢町の環境保全プロジェクトを立ち上げようとしているところで、その指標を吹田市に取り入れていく姿勢は必要だと思う。今後の協議体でもそのような点に目を向けて、地域循環共生圏に取り組んでいきたい。

#### B 委員

節エネと省エネの違いの注釈は誤解を招く言い方だと思う。節エネは一般的には節電と表現されるが、節電は kW で省エネは kWh であり、電力のひっ迫という意味では kW を小さくするという意味でピークの時間をいかに抑えるかということで当然リンクはしてくるが、書き方が分かりにくい。

ごみもエネルギーも、施策によってライフスタイルが転換して減少したのか、新型コロナウイルス感染症という特殊な状況によって減少したのかによって記載方法が変わってくるのではないかと。2019 年度ごろから比較する必要があると思う。

#### 事務局

本市では、節エネと省エネという言葉で以前より使っており、節エネは「不要な電気を消す」、省エネは「高効率な電球に替える」といった使い分けをしている。本市の姿勢としては、省エネルギー機器に買い替えたからといって、エネルギーを大量消費しても良いということにはしたくないため、節エネルギーも大事であるということを環境基本計画でも記載している。

ごみの排出量等については、令和元年度は 850g だったが、令和 3 年度は 835g となっている。

#### B 委員

節エネ・省エネについては了解した。

資源ごみの方にまわっていて、ごみ全体の量は減少してないのではないかと。

#### 事務局

参考資料 1 の P12 に市民 1 人 1 日あたりのごみの排出量を 4 年度分記載しているが、順調に減少している。

会長

全体量だけでは分からない部分もあると思うので、これからも突発的な出来事に対してどのように変動するのか注目して行って欲しい。

E 委員

市の人口が増加しているため、全体の家庭系ごみは増加しているのではないかと。

事務局

参考資料 1の P13 に年間の家庭系ごみ排出量を記載している。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に増加したが、2021 年度は 2019 年度よりも減少していることから、減少傾向にあると思われる。

副会長

令和 10 年度の目標値はいつ、どの会議体で決定したのか。例えば、マイバッグ持参率は 80%となっているが、既に達成している。もともと目標値は 87%ではなかったか。目標値は実績よりも高いものである。令和 2 年度のマイバッグの達成値は 83%、2021 年度は 81%であるにもかかわらず、目標値を 80%に落としたのはなぜか。

事務局

マイバッグ持参率 80%の目標値を含む環境基本計画は、本審議会でも 2018 年度から目標値等を確認していただき、2020 年度に策定している。その後、廃棄物減量等推進審議会に審議していただいた 2021 年度策定の吹田市第 3 次一般廃棄物処理基本計画において、目標値を 87%に引き上げている。

市の目標は 87%だと認識しているが、環境基本計画策定時点では目標値を 80%としたため、今回の指標も 80%としている。

副会長

次回、改訂する際には再検討の必要がある。透水性舗装面積累計に関しても目標値を既に超えているため、目標の意味が無くなっている。2028 年度はかなり先なので、検討する方が良いかと思う。

会長

環境基本計画は、2028 年度までに中間見直しは予定しているか。

事務局

中間見直しは現時点では予定していない。新型コロナウイルス感染症や社会情勢等が目標や指標に大きく影響を及ぼし、意味をなさなくなった場合は検討する。

A 委員

環境基本計画の P6 に必要に応じて見直し旨が記載されているため、目標値については、「決定時は 80%だったが、現在は 87%を目指している」旨を書き加えるのは問題ないのではないかと。審議会の委員が納得すればの話だが。

副会長

同意見である。吹田市第 3 次一般廃棄物処理基本計画で目標値が 87%になっているということと、「令和 3 年度（2021 年度）は、令和 2 年度（2020 年度）よりも持参率が低下しており、」という文言が合わない。

事務局

達成してしまっている数値については再検討させていただく。

B 委員

10 年の計画であれば、5 年で見直しが一般的である。2015 年のパリ協定の後、脱炭素に関する目標値の見直しや、廃プラ新法の制定など、環境行政は大きく変化している。変化に対する適切な計画の見直しはするべきだと思う。

事務局

中間見直しをしないということではなく、必要に応じて見直す。

F 委員

環境基本計画は一般市民にどう共有されているのか。審議会委員になるまで計画の存在を知らなかったため、市民も環境について考えられていることを知らないのではないかと。

事務局

環境基本計画は、市民・事業者・行政のすべてが取り組むものとして策定しているが、現実的には、行政がすべきことに多くのページが割かれている。市民や事業者との連携がなければ進んでいかないため、市民に計画自体を知っていただくことも必要である。一方で、計画自体を知っていただくことが大事なのか、各分野の取組自体をすすめていくことが大事なのかは迷うところがある。計画自体の PR は十分ではないかもしれない。

F 委員

市民が進んで取り組んでいけるように、例えば大学生等に向けて取組をもっとアピールしてはどうか。

B 委員

吹田市は、施策を打って検証をしようとしているので、そういったことはアピールしてはどうかと思う。

D 委員

年齢が 10 歳違えば、興味を持つ対象も違う。グローバルなトレンドに興味を持っているので、触れておいてもいいかもしれない。

事務局

ライフスタイルを転換していただいて、自分事として取り組んでいただかないと達成できない目標も多い。世界的なトレンド等もありながら、実際に足元を見たときに何をしたいといけないのかを記載して環境基本計画を作り上げる形は踏襲しなければならないと思う。

D 委員

グローバルなトレンドでも、ライフスタイルを変えなければいけない、という話が出てくる。

C 委員

環境政策から積極的に SDG 的ライフスタイルの転換までつなげるようなストーリーを提案していただけると良いのかなと思う。次回以降の記載に期待している。

3 報告

- (1) 環境目標値の変更について (資料 3)
- (2) 第 3 次環境基本計画の指標について (資料 4)

会長

次に報告事項について、説明を受けたい。

事務局

資料に基づき説明。

会長

ただいまの説明について、意見はあるか。

A 委員

環境基本計画の指標について、オンラインで実施されたイベントは複数あるはずだが、「吹田環境サポーター養成講座」だけ見直しが提案されているのはなぜか。

事務局

「吹田環境サポーター養成講座」は他のイベントと違い、その事業のみで指標が設定されているため、数値に直接的な変化が見られると考えた。

A 委員

その方針であれば、他の指標も変えられるのではないか。

事務局

より良い目標値に変更したいと思う。

A 委員

特に事実が変わっていることについては、現実と乖離しないように変えていけるように審議していけたらと思う。

C 委員

改訂ありきではなく、何年かごとに達成状況を確認して、目標をより高いところに書き直していくと良い。

毎回変更していくと大変なので、ストックテイクのプロセスがあると良い。

会長

重要な意見がたくさんあったが、事務局としてはどうするか。

事務局

いただいた意見の中で、指標に関する指摘は議事録に記録し、あらためて検討していきたい。

A 委員

環境基本計画はSDGsと結びついているが、評価では触れられていない。冒頭か最後にグローバルな視点を加えられてはどうか。

会長

副会長や事務局と調整して作成したいが、一任していただけるか。

一同

異議なし。

#### 4 閉会

会長

予定の議事が終わったので本日の環境審議会を終了する。